

粕谷和夫の観察日記より。八王子・高月水田に毎月1回、野鳥の定期カウントに行っています。8月は4日に行きました。田んぼの一角にヒマワリ畑があり開花の真最中。近づいてみたら全ての花が東を向いていました。何故か、微笑ましいです💡

紅葉台



新聞

第256号

2026年

10月16日

発行人：関谷 孝

81年目の夏 いのはなトンネル&招き猫

第43回 いのはなトンネル慰霊の集いに参加して

1945年8月5日 あの日もこんな青空だったのだろうか。強い日差しがセミの鳴き声と共に戦禍の跡を偲びました。今年は、戦後81年。これからは語り部に代

わりこの戦争の悲惨さを若い人たちに語り継ぐことが「平和」への第一歩に繋がるのでは。この春、東京学芸大学付属小金井中学校、立正佼成会青年部の平和学習会の中学、高校生が 湯の花（いのは



な）慰霊の日に献花し湯の花トンネルを見学しました。

81年前のこの日、浅川駅（現・高尾駅）を発車した電気機関車8両編成419列車が午後0時20分頃湯の花トンネルの東側入り口で4機のP51の銃撃を受け40名が即死、関連死を含め60名以上が亡くなりました。国内最大の列車銃撃でした。たくさんの民間人が亡くなったのです。女性の車掌は後年出発したことを悔やんでいたとの話を聞きました。 今年は大手新聞社（朝日、読売、毎日、産経、東京、山梨放送）が取材に来ていました。八王子の戦災跡を長年ライフワークに活動している齊藤勉さんの尽力に負うところが多いです。



「変わりゆく風景の中で語りつづけるガイドブック 八王子の戦跡」1200円が揺籃社から発行されています。八王子市内に今なお残る戦跡を、地域ごとに地図や写真、年表等豊富な情報と共に学習ノートとしても使えます。本を手にとってみると思いのほか私たちの住む町の身

近なところにたくさんの戦跡が残されていることが分かります。

その中の一つに「空襲をくぐり抜けた、強運の招き猫美吉」があるので紹介します。



昭和20年8月2日第二次世界大戦による八王子空襲があり、市内は大きな被害を受け、市内の家屋8割が焼けたと伝えられています。その戦火の中で焼け残った1つの蔵がありました。それは瀬戸物屋の蔵でそのご主人から「大きな被害のため商売を辞める。どうか焼け落ちなかった蔵の中身を全て買って欲しい」と知人であった、仏壇販売店喜久屋の初代店主が頼まれました。その蔵の中に残っていたのがこの招き猫でした。蔵は焼け残ったとは言え、蒸し焼き状態で、招き猫の表面の焼けたような後は、その時に



ついたものです。当時の招き猫は今はと違い3頭身。現物を見ると大きく感じました。八王子の変貌を見守り、平和な世界を

望み続けています。仏壇の喜久屋は、かつては八王子西放射線ユーロードの一角に本店がありましたが、今は移転をして八王子南口（中町9-11）にあります。是非実物をご覧になってみてください。

私たちの住んでいる街にはたくさんの戦跡があります。それを自分の足で歩いてみて、戦争のことを学んでみるといいですね。二宮金次郎の読書像も、日中戦争が始まった頃から、当時のあるべき子供の姿の象徴として建てられたのです。また、八王子の銀杏並木の中にも大きな傷のついた木が何本もあります。八王子にたくさんの焼夷弾が落とされ、街のほとんどが焼かれましたが、銀杏の木はその戦火をくぐり抜け、生き続け、今も同じ場所に立って通りを彩っているのです。このように私たちの周りに残っている戦争の傷跡を実際に見に行き、学んだり感じたりすることがとても大事です。戦争の悲惨さを忘れないことが平和を守り続けていくことにつながると思うからです。

追伸：この日、大学2年生の青年が遠く川崎から来ていました。聞くと「今朝5時のラジオニュースでこの日のことを知り2時間以上かけて来ました」「実際に話を聞いてとてもよかった」と。早速東京新聞の記者が記事にしました。長年の取り組みがこうやって若い人に伝わっていく姿を目の当たりにし、明るい気持ちになりました。

粕谷和夫の観察日記

最近歩道脇に葉を触っただけで痛みを感じるアザミが増えてきました。**アメリカオニアザミ**です。この写真は8月1日、八王子・湯殿川脇の道で撮ったもの。落下傘を付けた種を飛ばしているところです。茎にも葉にも総苞にも固くて鋭いトゲがあるのでうっかり触ると痛みだけでなく怪我をしやすい「困りものの外来種」です。アメリカとありますが、原産地はヨーロッパです。



トケイソウの実、パッションフルーツ

高月水田の一部で栽培されているパッションフルーツが収穫期を迎えました（8月4日）。八王子市の名産品にしよう！と市内の若手農業後継者が生

産組合を立ちあげて栽培しています。道の駅八王子滝山に行けば果実だけでなくサイダーやジャム等のパッションフルーツを使った商品も販売中です。

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしております。